

○問8. 次の文は、「自律神経」についてのものです。

() に下の語群から適切なものを選び、番号で答えなさい。

自律神経には、交感神経と副交感神経があり、お互いにバランスを取り合っている。交感神経は、心臓を収縮したりするリズムを (a) しようとし、副交感神経は、(b) しようとする機能を持っている。ところが、このバランスがいとも簡単に崩れてしまうことがある。その原因は (c) である。こうなると、副腎から (d) というホルモンが分泌されてくる。このホルモンは、血管を収縮させる作用があり、血圧を上げてしまう。また、厄介なことに、このホルモンは、交感神経を刺激して一層 (e) を分泌するように働く。

[語群]

- ①遅く ②アドレナリン ③ストレス ④インスリン
⑤腹痛 ⑥速く ⑦サイロキシン ⑧肝炎

[解答欄]

(a … b … c … d … e …)

問9. 次の文は、「ヒスタミン」と「抗ヒスタミン薬」についてのものです。

() に下の語群から適切なものを選び、番号で答えなさい。

「かぜウイルス」が鼻粘膜で繁殖すると、ヒスタミンが活性化して遊離し、(a) と結合して「鼻かぜ」症状である (b)、(c)、鼻づまりの症状を現わす。

ヒスタミンと化学構造が (d) いる抗ヒスタミン薬は、ヒスタミンが受容体と結合するのを阻害し、自ら受容体に結合する。このことを (e) という。

[語群]

- ①異なって ②類似して ③覚醒作用 ④眠気 ⑤鎮痒作用
⑥ヒスタミン受容体 ⑦車 ⑧くしゃみ ⑨鼻みず ⑩競合作用

[解答欄]

(a … b … c … d … e …)

○問10. 次の文は、薬の作用について述べたものです。

() に下の語群から適切なものを選び、番号で答えなさい。

薬物は、生体のある部分に到達して初めてその効果が現われる。その部位を (a) という。例えば、睡眠薬のそれは (b) で、気管支拡張剤のdl-メチルエフェドリンでは (c) である。また、鎮咳薬のリン酸ジヒドロコデインでは (d) の咳中枢で、アセトアミノフェンやアスピリン等の解熱鎮痛薬では (e) である。

[語群]

- ①作用点 ②動作点 ③大脳皮質 ④筋肉 ⑤肺
⑥気管支筋 ⑦食道 ⑧延髄 ⑨脊髄 ⑩視床下部

[解答欄]

(a … b … c … d … e …)

解剖生理学

問32. 次の文は、感覚器系の聴覚、味覚、嗅覚についてのものです。

正しいものには○印、誤っているものには×印を（ ）に記入しなさい。

- () 1. 高齢になると、高音部が聞き取りにくくなる。
- () 2. 苦さを感じる部分は、舌の先であり、したがって苦い薬を飲む時はなるべく舌の付け根（舌根）におくと、あまり苦さを感じない。
- () 3. 内耳は、聴覚と平衡覚を受け持っている。
- () 4. 嗅覚は、疲労し易く、環境になれ易い。
- () 5. 味蕾（味覚芽）には、味を感じる味覚細胞があり、水に溶けた食物中の分子やイオンに触れると興奮し、味覚中枢に伝わり味覚を感じる。

問33. 次の文は、中枢神経についてのものです。

正しいものには○印、誤っているものには×印を（ ）に記入しなさい。

- () 1. 高齢になると脳重量は1割くらい軽くなり、物忘れを起こしたり、動作が遅くなる。
- () 2. 脳は頭蓋腔内に、脊髄は脊髄腔内に収められていて、表面は膜で覆われ外界から保護されている。
- () 3. 小脳は、延髄と大脳の間であって身体の平衡を司り、各部の運動を円滑に行わしめる。
- () 4. 脊髄は、生命維持に欠くことのできない重要な呼吸、循環、消化等の中枢がある。
- () 5. 延髄は、意識とは無関係に臓器や筋肉に運動を起こさせる反射作用がある。

問34. 次の文は、自律神経についてのものです。

() に下の語群から適切なものを選び、番号で答えなさい。

自律神経は、主に（ a ）及び血管壁の運動と腺の分泌を司り、意志とは関係なく働くので（ b ）とも呼ばれる。自律神経は（ c ）と副交感神経の2つに大別され、両者は互いに（ d ）作用し、（ e ）を適正に保つことができるように調節している。

[語群]

- ①拮抗的に ②内臓器官 ③生態機能 ④交感神経 ⑤植物神経

[解答欄]

(a… b… c… d… e…)

薬品各論

問81. 次の文は、アスピリンについてのものです。

() に下の語群から適切なものを選び、番号で答えなさい。

アスピリンは別名で (a) といわれ、湿った空気中で、徐々に (b) してサリチル酸と (c) になる。かぜ薬に (d) として配合されている。

ライフワークの永い薬であるが、アスピリンは (e) の患者には禁忌である。

[語群]

- ①喘息 ②酢酸 ③加水分解 ④解熱鎮痛薬 ⑤アセチルサリチル酸

[解答欄]

(a… b… c… d… e…)

○問82. 次の文は、アスピリンについてのものです。

() に正しいものには○印、間違っているものには×印を記入しなさい。

() 1. アスピリンはピラゾロン系 (ピリン系) 解熱鎮痛薬である。

() 2. アスピリンは、消炎作用もある。

() 3. 血栓溶解作用がある。

() 4. インフルエンザにかかった小児に投与すると、ライ症候群になり死亡することがある。

() 5. 食欲不振、胃痛など胃腸障害を起こす。

○問90. 次の文は、抗ヒスタミン薬についてのものです。

() に正しいものには○印、間違っているものには×印を記入しなさい。

() 1. 中枢神経に作用し、眠気を起こすので、投与中に自動車の運転、危険な機械の操作を避けることが必要である。

() 2. 抗コリン作用を有するものが多いので、緑内障、前立腺肥大などには投与しない。

() 3. 適応は、蕁麻疹、皮膚疾患に伴う掻痒、風邪のくしゃみ、鼻汁、くしゃみ及び乗り物酔いである。

() 4. 塩酸ジフェンヒドラミンは、 H_2 -受容体遮断薬である。

() 5. ジフェンヒドラミンは、水に極めて溶けにくいので、乳剤性基剤に混合する。